

アグリ ワーク ポイント AGRI WORK POINT



茶指導販売課 菊川



いよいよ一番茶を迎えます

今月からいよいよ新茶シーズンを迎え、早いところでは摘採作業が始まることもあるかと思えます。近年、気象の変動が激しくなっていますので、茶園をよく観察して生育状況に合った管理を行いましょう。

一番茶の摘採

摘採期は茶園によって様々ですが、摘採期が早いと品質が向上し収量が少なくなる一方遅れると収量は増加しますが、葉が硬化して品質は低下していきます。

目安として、茶葉は約5日で1葉開くとされており、開葉数(総芽数÷開葉枚数にて算出)が4.5葉となった頃が摘採適期となりますので、新芽の生育状況を把握して管理を行うことが重要になります。

【例】4月10日に生育調査を行い、総芽数5000のうち開葉枚数は250枚だった。

↓開葉数は0.5となり、摘採適期は4月30日～5月1日頃と予想されます。

病害虫の防除(4月中旬～下旬頃)

①カンザワハダニ

葉裏に生息し、吸汁加害を引き起こします。気温が上昇すると発生しやすくなりますので、気象状況に注意しつつ早期防除を心がけましょう。

※春先に管内で行われた調査では、地区によって差はあったものの高密度で発生しているほ場・一枚の葉に数頭寄生されているほ場が見られました。

裾の低い位置にも発生が多く見られたため、茶樹全体にかかるよう400L/10aの薬液を丁寧に散布しましょう。

②コミカンアブラムシ

新芽に寄生して被害をもたらします。摘採期が近いため、周辺茶園の様子に注意し、各地区の防除規制に従って薬剤散布を行いましょう。